



KP TIMES



2025年
10月号

当社は、京都・滋賀・福井に拠点を置き、ダンボールケースをメインとしたあらゆる包装資材を取り扱っている会社です。

発行：(株)ケイジパック 本社
〒601-8392
京都市南区吉祥院内河原町10番地
TEL 075-315-3151
FAX 075-315-3152



～使い捨てから“循環”へ。

終幕後も問われる環境配慮の本気度～



2025年10月に閉幕した大阪・関西万博。環境配慮を掲げた今回の万博では、終了後も資材や設備を廃棄せず再活用する「リユースマッチング」が注目されています。

■ 使い捨てから“次の価値”へ

従来の大型イベントでは、終了と同時に廃棄される設備や資材が多く、廃棄物の山と環境負荷が大きな問題となっていました。今回の大阪・関西万博では、「ごみゼロ」や「循環経済の実現」が大きなテーマとして掲げられており、イベント終了後も、持続可能性の視点が求められていました。こうした流れからスタートしたものが、「万博サーキュラーマーケット ミヤク市！」です。これは、会場で使用された展示什器や膜材、鉄骨などを他の企業や団体に再活用してもらうためのマッチングサイトです。2025年10月16日から本格的に始動しており、出展者や施工業者から登録された資材情報をもとに、再利用先とのマッチングを進めていきます。これにより、廃棄物の削減だけでなく、仮設資材を地域施設や教育現場などに活かす「循環の連鎖」が期待されています。

(詳細は、<https://www.reuse-materials.jp/>へ)

■ 万博の“後”を考える時代へ

万博は「未来の実験場」とも言われます。リユースマッチングという仕組みが機能すれば、それは一過性の展示会で終わるのではなく、「未来の循環型社会のモデルケース」として残るでしょう。終幕後の会場跡地「夢洲」においても、資材の再活用や自然環境との共生、さらにはスマートシティ構想との連携など、環境を軸にしたまちづくりが期待されています。

私たちも、このような大規模イベントの「後」を見据えた取り組みから学び、企業活動においても“使い切る”のではなく“活かし続ける”視点を持っていきたいものです。

▶ 編集後記

リユースという言葉が、もはや「節約術」ではなく「社会の責任」になりつつある今。大阪万博の挑戦は、その先の社会全体への問いかけでもあります。

当社においても、調達・廃棄・物流の在り方を見直す良い契機と捉え、日々の業務に活かしていきましょう。

製作事例などを
ご紹介！

ホームページも
ぜひチェックして
ください！
<https://keiji-p.com/>

@keiji_pack





鴨川の清掃活動に500人参加 カワセミの姿も確認



9月には、市民ボランティア約500人が参加する鴨川清掃が行われました。ペットボトルやビニールごみ約1トン回収。活動後には生き物観察会が開かれ、カワセミやメダカの姿が確認されました。「小さな努力の積み重ねが川の生態系を守る」と、主催者は語ります。鴨川では外来種対策や水質改善プロジェクトも進行中です。



紅葉シーズン目前 エコツーリズムで歩く京都が人気



10月、観光地では紅葉シーズンを前に観光客が増え始めています。京都市はCO₂削減を目指し、自転車や徒歩での観光を推奨。「エコツアーKYOTO」では、嵐山や東山エリアを中心に電動バスやシェアサイクルの利用が広がっています。観光と環境保全を両立する“持続可能な観光都市・京都”への動きが加速しています。



食品ロス削減と回収拡充

「京都市、食品ロス対策強化 『TABETE』 初期費用無料化キャンペーン」

✂ 背景と目的 ✂



京都市では、本来食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」が、年間4.7万トン（令和6年度）排出されています。

そうした中、近年、デジタル技術等で食分野における課題解決を図るフードテックサービスが進展しており、食品ロス削減への貢献が期待されていることから、令和7年8月8日に、京都市とフードシェアリングアプリ「TABETE」を運営する「株式会社コークッキング」とで、食品ロス削減に向けた連携協定を締結しました。

この度、株式会社コークッキングとの連携協定に基づき、市内の食品小売店や飲食店等を対象に、同社の運営するフードシェアリングアプリ「TABETE」において、新規登録時の初期費用（通常10,000円（税抜））が無料になるキャンペーンを期間限定で実施します。

今後、キャンペーンの実施などにより、TABETEの登録店舗数及びユーザー数を増やし、市内での利用拡大を図ることで、食品ロスの更なる削減につなげます。

こうした動きは、消費段階でのロスを減らし、食材を有効活用する意識を市民に根付かせたいという行政の意向を示すものと言えます。

京都は、伝統と自然を重んじながらも新しい価値を生んでいく土地柄。

これからの環境政策は、制度整備と市民・事業者の創意工夫が出会う場をいかに設けるかが大事となっていくでしょう。

そうして作られていく“京都らしさ”を軸に繋がる未来を見守っていききたいですね。



<https://tabete.me/>

詳しくはこちらの公式HPをご覧ください。



K P T I M E S はびわ湖の森の木になる紙を使用しています

